

ala クルーズ

広報第 48 号
平成 30 年 10 月 1 日

平成 30 年度通常総会

平成 30 年 5 月 20 日(日) 11 時よりワークショップルーム洋室にて、特定非営利活動法人alaクルーズの平成 30 年度通常総会が開催されました。来賓として財団から衛館長、後藤課長、坂崎係長、熊澤氏にご出席いただきました。三島理事の開会の辞の後、澤野理事長の挨拶がありました。設立より 16 年余りに及ぶalaクルーズの活動が町づくりに尽力したと高く評価され、『平成 30 年度岐阜県各界功労者表彰』を受けたことの喜び。会員も数名の退会者があるものの同程度の入会者もあり、会員数は落ち着いていること。また、平成 13 年頃に衛館長からalaクルーズに 6 つの提言があり、それらは、会則・意思決定・責任・理事・ボランティアコーディネーターの組織及び保険に関することであり、当初より財団の大きな支えがあったことなどを



話されました。次に総会定足数の報告がなされ、正会員数 46 名の内、出席者 24 名、委任状 17 名で本総会が成立することが宣せられ、永瀬氏が議長に選出されて議事が進められました。第 1 号議案：平成 29 年度の事業報告並びに収支決算報告の承認、第 2 号議案：組織役員変更の承認(18 年度、19 年度に限り理事 6 名で行う)、第 3 号議案：平成 30 年度事業計画並びに事業予算の承認について、



会員の拍手を持って原案通り承認されました。最後に来賓の方々の紹介がなされ、衛館長から挨拶がありました。まず、総会開催と県の功労賞受賞についての祝辞と、ala発足当初はアゲインストだった劇場運営について、少しずつだが劇場への人々の認識も変化しつつあること。もちろんalaは 2%弱に過ぎない劇場愛好者のためにあるのではなく、文化を担う普通の人々、即ち市民のためにある。ゆえに劇場を出ていき『アールまち元気プロジェクト』等、社会包摂性の高い事業を行っている。衛館長は東濃高校でのアウトリーチなどの活動を踏まえ、冒頭の澤野理事長の言葉を受けて 7 つ目の提言をくださいました。「今、可児市の子ども達の貧困もひどい状態になっている。彼らを何とかしなければならぬと対策を考えている。行政は縦割りだが、文化は横向きだ。alaクルーズも劇場の外へ出かけて行き、alaが行うワークショップを受けた子どもたちがどのように変化しているのかを見逃さないでほしい。ホールの中で自己完結しないで、自信を持って次のステージへ次のフェイズへと入って行くならば、alaならではの文化ボランティアの在り方が見えてくるのではないかと投げかけられました。藤井理事の閉会の辞で総会は無事終了し、出席者は功労賞受賞の記念に集合写真を撮り、お祝いの紅白のお饅頭を頂きました。引き続きスタッフルームにおいて交流会が行われました。



岐阜県各界功労者表彰 『地域づくり関係』 受賞

岐阜県表彰規程により、各界で活躍し県勢の発展に尽力された方々を表彰しております。ということで、この度、alaクルーズが表彰されました。

岐阜県各界功労者表彰 『地域づくり関係』 受賞式

日時 平成30年5月16日（水） 10：00

場所 岐阜清流文化プラザ 2階 長良川ホール

行事 表彰式

記念公演講師 朝日大学学長 大友克之氏



岐阜県各界功労者表彰は思いもよらないことでした。これまで16年余り行ってきた活動が、岐阜県の各界功労者表彰という「形」で評価されたことは、大変光栄なことです。このことは、会員一人ひとりにとって大きな励みとなり、今後の活動への意欲と自信に繋がっていくと確信します。この表彰を受けることができたことは、会員の努力はもとより、これまでalaクルーズを支えて下さった、多くの皆さまのお力添えがあったからこそその結果です。特に（公財）可児市芸術振興財団の皆さま方の、深いご理解とご尽力に対し、感謝の気持ちでいっぱいです。この表彰を一つの区切りとして捉え、驕ることなくこれまで以上に皆さま方の期待に添える活動を継続していくことが、NPO法人alaクルーズに課せられたミッションだと考えます。（S）



総会後で勢ぞろい



2018年度

劇場フロントスタッフ養成講座

はじまる

講師 星乃もと子氏

星乃先生は劇場及びホテルなどさまざまな場面でお客さまをお迎えするための活動を専門に指導されています。今年もフロントスタッフ活動に興味のある市民の方々の入門講座及びalaクルーズ会員の活動を見直す機会としてこの講座が設定されました。1回目の7月16日(座学)には市民が14名、クルーズ会員が22名参加して、音楽ロフトを使用して開催されました。講座では市民参加の方々が想像していた



のと全く違うという思いを持たれるような場面が、次々に現れてきたのではないかと感じました。第一に普段使っているのとは違う言葉とその意味、劇場での公演におけるフロントスタッフや裏方、出演者や観客との関係性。第二にフロントスタッフの役割・第三にプロとしてのスキル・第四に自分自身の印象の管理・第五にマナーの原則など劇場における非日常の活動の様子を理解できてきたのではないかと思います。特に今年は男性の方が数名参加されて、女性が多いこの場にきたことが間違っていたのではないかと



というような質問を受けました。全く心配がないことを伝えました。クルーズとしては繰り返し行われる講座ですが、星乃先生は毎年新しいことを組み込んで指導されています。我々も常に新しい事態に対応するためにも、緊張して事に当たらなくてはならないという気持ちをあらためて感じとりました。2回目は8月4日(実施研修)、そして最終は10月28日(OJT)と盛りだくさんの内容となっています。ベテランの会員も新人の会員も、



この講座で気持ちを引き締めたいものです。(S)



8月4日(土)にフロントスタッフ研修会が行われました。7月は座学、8月は主劇場での実地研修ということで、一般参加者とクルーズスタッフの28名が受講しました。エントランスの作り方・もぎり・客席扉の管理・お客様への対応とスタッフとして必要なことが網羅された内容で、実際に劇場の中を移動しながら繰り返し手順を確認しました。1年前にも受講しましたが、まだ経験が浅いため分かっていても体が動かない、反射的に言葉が出ないと力量の無さを痛感した研修でもありました。遅れ客対応では、スタッフ同士で連携し臨機応変に対応することの大切さも分かりました。星乃先生からは、技術の指導は勿論ですが、口角を上げ笑顔で何があっても慌てない



というスタッフの心構えもご指導いただきました。ご来館いただいたお客様に少しでも気持ちよく過ごしていただけるように、バタ足の白鳥で頑張っていきたいと思います。(O)



フロントスタッフ新人研修

今年度（公財）可児市文化芸術振興財団主催、協力NPO法人alaクルーズで開催した、「2018年度劇場フロントスタッフ養成講座」を受講された方々の内、7名の方が、alaクルーズに入会されました。星乃もと子氏による、フロントスタッフとしての役割などを学んだ後、クルーズの研修を行いました。これからは実際のフロントスタッフとしての一日の流れや、細やかなスタッフとしての心得などを学び、その後、実際に公演に参加して勉強していきます。もうすぐデビュー致します。研修生の名札を見かけましたら、応援して下さいね。



新人フロントスタッフ一言

・新しい自分を発見したいと思い
参会させていただきました。(Y)

・ステキ女性を目指して自分磨き
・新しい事にチャレンジします。(S.M)

・“楽しく笑顔で”
(S.F)

・前向きな人たちがいらっしやる環境で新しい事にチャレンジしたいと思います。(A)

・自分みがきのため。星乃先生の講義を受講したかったので参加しました。(R)

・皆さんが楽しく過ごしていただけるように、頑張っていきたいと思います。やってみたく思っていた事が現実になって楽しみです。(T)

・私にとっては、久しぶりの大きなチャレンジで、身の引き締まる思いです。頑張ります！お世話になります。宜しくお願いします。(Y.I)



前年度のイルミネーション

2018 イルミネーション

今回の作品は『鶴の恩返し』今月から制作に取り掛かります。まずは図面起こし、それに合わせて「ああでもないこうでもない」が始まります。点灯式は12月8日！来年の2月11日まで冬の夜空を飾ります。合わせてランプシェードのワークショップが平成30年12月22日(土)に開催されます。

(詳細については後日ホームページなどで発表します)



編集後記

断捨離しようと、段ボール箱をとりあえず3個、目の前に置いた。読みもしない新聞や雑誌の切り抜きなどが入っている。段ボール箱ごと捨ててもおそらく困りはしないものだと思いつつ、整理に取りかかったのが運のつき、人はそれらの記事だけでなく、記憶から消されかけていた、その時の環境、人間関係、心情までも思い出す。ダンボール箱は2個に減ったがまた部屋の隅に積まれている。(N)

* *

alaクルーズ事務局 TEL/FAX : 0574-61-3414
<http://www.kpac.or.jp/ala-crews/>
Mail : ala-crews@kpac.or.jp

ala クルーズ

戻る